

福島県における哺乳類の外来生物確認事例

大槻 晃太・佐藤 洋司・岩崎 雄輔

福島県野生動物研究会

これまで福島県で確認された哺乳類の外来生物は、11種であり、その中には、ペットが逃げ出したもしくは遺棄されたものと見られるプレーリードック、アンケートによる目撃情報はあるものの、アメリカミンクとの誤認の可能性が高いヌートリア、1985（昭和60）年に一時期に確認されたタイワンザルも含まれている（表1）。

これらのうち、アメリカミンクやアライグマ（図1）は、写真等による確認情報が多く、年々情報数や確認地点も増加していることから定着しているものと考えられ、繁殖を示唆する情報もある。

アメリカミンク（以下ミンクとする）については、全国的に毛皮生産を目的とした養殖場から逃げ出したもしくは遺棄されたと考えられる場合が多いといわれている。福島県（2007）および岩崎（2007）に独自の情報も追加した、ミンクの福島県内の各市町村の2007年までの分布を図2に示す。これによると阿武隈川水系の市町村に確認情報が集中していることがわかる。岸元（2006）によると長野県佐久地域で、ミンク繁殖施設のあった千曲川に沿って分布が広がっており、逃亡個体が野生



図1. 2005年に福島市で確認されたアメリカミンク（撮影：矢内靖史）（左）と2000年に南相馬市で確認されたアライグマ（撮影：吉川勝利）（左）。

表1. 福島県において確認されている哺乳類の外来生物。

目 名	種 名
ネズミ目	クマネズミ ドブネズミ ハツカネズミ ヌートリア プレーリードック
ネコ目	アメリカミンク ハクビシン アライグマ イヌ（ノイヌ） ネコ（ノネコ）
サル目	タイワンザル

化したものと考えているという。本県においても三春町や国見町にミンクの養殖場があったことから逸脱個体や遺棄個体の可能性が高いと見られる。

また、アライグマについては、全国的にペットとして飼われたものが成長とともに性質が荒くなり遺棄されることが多いといわれている。本県においても確認情報がミンクのような連続性を持たないことから、ペットの遺棄個体の可能性が高い(図3)。また、幼獣と考えられる個体の写真もあることから繁殖も示唆される。さらに、いわき市で他県から移動してきたトラックの荷台からアライグマが確認されたという事例もあった。

いずれの外来生物も、ペットや家畜として人間によって持ち込まれた生物であり、我々人間のモラルが問われる。こうした外来生物の生息情報や生態系等に与える影響、対処方法などを情報収集・提供し、駆除も含めた具体的な排除手法によりこの問題に取り組まなければならない。また、ペット大国とも呼ばれる日本においては、こうした外来生物が出没する可能性は高く、動物愛護関係機関との連携などにより飼い主である人間の責任を喚起し、遺棄等の予防が行えるようになっていく必要がある。

引用文献

- 岩崎雄輔 (2007) 福島県におけるアメリカミンク (*Mustela vison*) の生息情報. 福島生物 (50): 29-31.
- 岸元良輔 (2006) 長野県佐久地域におけるアメリカミンク (*Mustela vison*) の野生化. 日本哺乳類学会 2006年度大会講演要旨集: 47.
- 福島県 (2007) 特定外来生物概況調査業務報告書. 福島県, 福島.

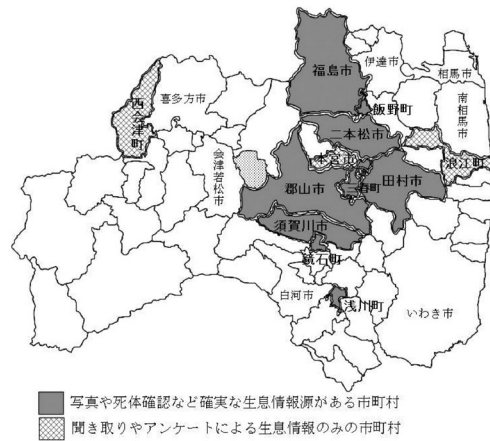


図2. 2007年までにアメリカミンクの生息確認情報のあった福島県内の市町村。福島県(2007)および岩崎(2007)を改変。

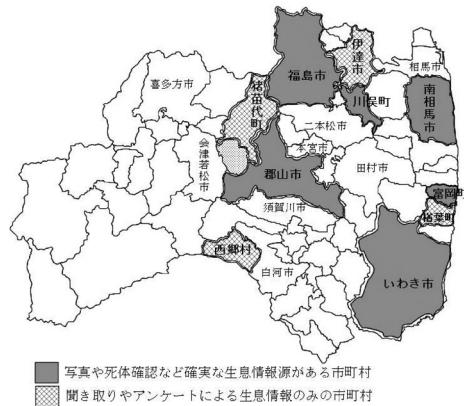


図3. 2007年までにアライグマの生息確認情報のあった福島県内の市町村。福島県(2007)を改変。